

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>



2面

折原会長が福岡市の
水処理センターを視察
(福岡県本部)

4面

「美濃いび茶」初共販会
好発進
(岐阜県本部)

配送先変更(住所・宛名)、
配布部数変更はこちら



<https://forms.office.com/r/yUWVHyVVtK>

全農 ZEN-NOH

食と農を未来へつなぐ。

News!



折原会長が福岡市の水処理センターを視察

回収した再生リンで肥料資源をリサイクル

福岡県本部



再生リンについて説明を受ける折原会長(中央)と乗富会長(右)

YouTube動画はこちら



循環資源でつなぐ農業の未来
JA全農ふくれんが取り組む、
持続可能な農業の未来へ

折原会長は「再生リンは白色で、想像以上に汚泥の臭いもなかった。輸入に依存しているリンを下水から回収することで、肥料の価格を抑えて農家の負担を減らすだけでなく、環境問題など社会的課題にも貢献する大変素晴らしい取り組みだ」と話しました。

「e.g.reen」は、2022年9月から福岡県内JAグループの堆肥と福岡市和白水処理センターで回収した再生リンを原料として用いた有機質配合肥料として販売されています。植物の生育に必要な不可欠な栄養素リンについて、博多湾の水質保全のために下水から取り除かれている再生リンを使用していることに加え、県内の畜産農場で発生した堆肥を配合していることから、県内資源の循環に寄与しています。同肥料は現在累計で約17万5000袋が出荷され、生産者からも非常に好評を得ています。

福岡県本部は地域資源循環型肥料「e.g.reen(イーグリーン)」の取り組みを推進しています。全農経営管理委員会の折原敬一会長と福岡県本部運営委員会の乗富幸雄会長、倉重徳也常務理事は5月9日、福岡市和白水処理センターを視察し、実地確認しました。

News!



6月に2026年度研修者募集Web説明会

「ゆめファーム全農トレーニングセンター幸手」開設へ

耕種資材部



「ゆめファーム全農トレーニングセンター幸手」完成イメージ(施設農住部作成)



説明会
申し込み
はこちら



HPは
こちら

トレーニングセンターでの研修内容や、応募方法に関する説明会(Web開催)を6月11日18時、6月20日16時、6月21日10時に開催します。申し込みは左記QRコードからお願いいたします。

研修者は、全農職員の指導のもと温室運営者として、栽培・労務・収支管理、病害虫防除などを実践し、座学(動画教材など)で灌水・環境制御、植物生理、農業経営などを学ぶことで、全農が10年の実証を通して培ってきた温室運営ノウハウを習得することができます。

対象者は施設園芸で就農を希望する方および新規就農者の方で、募集人数は4人程度です。研修期間は26年10月〜28年9月(原則2年・応相談)。研修費用は無料で、研修中は全農の臨時職員として雇用し給与を支給します(社会保険完備)。

全農は、施設園芸で就農を希望する方への研修施設として、2026年、埼玉県幸手市に「ゆめファーム全農トレーニングセンター幸手」(栽培品目：トマト・ナス・キュウリ)を開設し、研修者を募集します。



呉羽梨グミの発売を富山市長に報告

富山で愛される特産梨を「ニッポンエールグミ」に

富山県本部



新発売した「富山県産呉羽梨グミ」



藤井裕久富山市長(左)に呉羽梨グミを手渡す
西井秀将富山県本部長

報告会で呉羽梨グミを試食した藤井市長は「風味・甘味・かみ応えが抜群。かめばぐっと梨の香りが口の中に広がり、とてもおいしい」と感想を述べました。

また、「梨そのものが市場に出回る際には、規格上扱いが難しくなるものもあるが、このグミのように商品になれば、同じようにおいしさを味わうことができる。ぜひたくさんの人に味わっていただき、こうした商品をつっかけに多くの方に富山の農産物を知ってもらいたい。これからが楽しみ」と期待を示しました。

富山県本部は5月20日、「ニッポンエールグミ」の新商品である「富山県産呉羽梨グミ」の発売に伴い、富山市の藤井裕久市長を訪問し報告しました。

呉羽梨は呉羽丘陵で栽培される梨の総称で、その歴史は長く、明治30年代までさかのぼります。長きにわたって富山県内をはじめ全国で愛され、今年も8月中旬ごろから収穫が始まり、JATAウンでも販売予定です。



全国納豆鑑評会で全農会長賞を授与

国産大豆の使用比率向上で需要拡大と安定供給へ

麦類農産部

受賞者に表彰状を授与する
石澤孝和麦類農産部長(右)



全国納豆鑑評会は、納豆日本一を決めるコンクールとして納豆の製造技術改善と品質向上を目的に毎年開催されています。今回の総出品数は全国70メーカーから187点。審査は納豆の外観、香り、味・食感の3項目について評価しました。

全農経営管理委員会会長賞として小粒・極小粒部門で道南平塚食品㈱「北海道のわら納豆 小粒」、大粒・中粒部門で(有)菊水食品の「菊水の大黒」が選ばれました。受賞した商品には北海道産大豆の「ユキシズカ」(道南平塚食品㈱)、黒大豆(有)菊水食品)が使用されています。

全農は5月9日、東京・上野で開催された「令和6年度(第28回)全国納豆鑑評会」(主催：全国納豆協同組合連合会)の表彰式で、全農経営管理委員会会長賞を受賞した道南平塚食品㈱(北海道)と(有)菊水食品(茨城県)に石澤孝和麦類農産部長が表彰状を授与しました。

輸入依存度の高い作物の増産を目指す政策の中、その対象として注目される大豆ですが、納豆での国産使用比率は25%とまだまだ低い状況です。全農は鑑評会などを通じて、国産大豆の需要拡大と安定供給を積極的に支援していきます。

News!

ブラウブリッツ秋田の選手と田植え体験

「元気わくわくキッズプロジェクト」11年目に

秋田県本部



プロジェクトに参加した子どもたちとブラウブリッツ秋田の選手たち



ドライフラワーアレンジメントに挑戦

秋田県本部とサッカーJ2リーグのブラウブリッツ秋田は5月24日、「元気わくわくキッズプロジェクト」を開催し、小学生11人と保護者9人が秋田市内の田んぼで田植え体験をしました。

プロジェクトは「次世代を担う子どもたちの健全な育成」を目的に開催していて今年で11年目となります。

はだしになった子どもたちと、同クラブの岡崎亮平選手、才藤龍治選手が「あきたこまち」の苗を手植えしました。田んぼの感触に歓声が上がリ、ぬかるむ泥に足をとられながらも目印に合わせて一生懸命苗を植え

ていきました。

ほかにもドライフラワーアレンジメント体験や、昼には子どもたちが炊きたての「あきたこまち」でおにぎり作りに挑戦しました。

県本部担当者は「農業体験を通じて普段口にしていない食べ物や育つ環境への理解を深め、自分で料理をして食べることで好き嫌いをなくし、食べ物を大切にしようとする意識をもって成長してほしい」と話しました。秋にはプロジェクトの第2弾として、実った稲の収穫体験をする予定です。

News!

「美濃いび茶」初共販会 好発進

最高価格は過去最高の1^キ当たり20万円

岐阜県本部

茶葉の品質を吟味する茶商



いれた茶を確認する茶商



岐阜県本部は4月30日に「美濃いび茶」の初共販会を開き、揖斐川町と池田町から三つのお茶組合と個人生産者1人の計48点、2549^キの荒茶が出品されました。県内外から11社16人の茶商が参加し、今年の茶葉の出来栄を吟味しました。

2月の雪や3月の寒暖差により芽の伸びが遅れましたが、4月は平年並みの気温が続く順調に生育しました。これにより、奥深さ・渋み・うまさを感じる高品質な仕上がりとなりました。

出品数と数量は昨年に比べ減少しましたが、1^キ当たりの最高価格は昨年の12万円を大幅に上回る20万円を記録し過去最高となりました。

抹茶の世界的な人気や茶葉の海外輸出増大により、

ペットボトル茶や抹茶の原料の需要が高まっています。資材や肥料の高騰により茶葉の生産維持は困難を伴いますが、「適期摘み」を行い、計画的な生産と製造に力を入れています。

また、安全で信頼性のある茶を提供するために農業生産工程管理(GAP)認証に取り組み、栽培履歴の記録を徹底し、厳格な生産管理を行っています。今後も生産者が意欲的に茶葉生産に取り組めるよう、有利販売に一層努めてまいります。



地域に役立つ施設へ機能拡充

地産地消で農家の所得向上

JA町田市は東京都の南部に位置する町田市全域と多摩市の一部を事業区域としたJAです。都内や横浜市など都心にもアクセスしやすい一方、里山の風景や、地



忠生支店 竣工写真 (外観東面)



忠生支店に設置した蓄電池

場野菜を作る農地が見られます。ベッドタウンとして、「農と住が調和したまちづくり」を目指した全国初の農住団地もあるエリアです。

太陽光パネルや蓄電池 生まれ変わった新店舗

2024年5月にJA町田市忠生支店と直売所「アグリハウスただお」、経済センターが新しく生まれ変わりました。新店舗は地域のために役立つ機能を持ち、暮らし

の支えになれるような機能設備を拡充しました。

新店舗には太陽光パネルや蓄電池を設置し、持続可能な開発目標(SDGs)の取り組みに即した建物となっています。災害時においても金融店舗の営業や電子機器の充電なども可能です。

アグリハウスただおでは、新たにベーカリーコーナーを新設。JAではアグリハウスただお、アグリハウスのみで焼きたてパンを楽しめ



地域住民から大人気の地場野菜

JA町田市 (東京都)



ます。地場産トマトを使用したピザパンや地場産ナスのホットドッグも季節限定で販売しています。また、米粉を使用した米粉パンの販売にも力を入れており、地産地消・国産国産に取り組んでいます。

学校給食への支援で 地場産野菜の販路拡大

町田市では2025年1月から中学校の全員給食が開始され、JAでは学校給食へ地場産農産物を届ける取り組みを推進しています。学校給食の規格に合わせた野菜作りを支援・強化し、生産量の増加を図った結果、24年度における地場産野菜の学校給食供給量は昨年度比で174%超となりました。



アグリハウスにベーカリーを新設

市内農業者の販路拡大・所得向上に寄与しています。

また、JAでは安心・安全・新鮮で高品質な農産物を提供し、地産地消に継続して取り組んでいます。直売所改革の要として、全店舗への安定した農産物の供給体制を確立しています。市内5カ所にある直売所アグリハウスへの出荷者は延べ376人となっています。

概要	2025年3月31日現在
正組合員数	2091人
准組合員数	1万1369人
職員数	195人
販売品取扱高	3億8千万円
購買品取扱高	5億6千万円
貯金残高	2680億4千万円
長期共済保有高	4333億9千万円
主な農畜産物	ナス、トマト、ダイコン

👑 優秀賞 (計9社、登壇順) 本プログラム参加企業

Milk. 株式会社	ハンディ鮮度測定器によるフードロス革命	
株式会社東京バル	栄養と美味しさの両立を実現する アップサイクル&プラントベース食品『KAWAÏINE ~皮いいね~』	
株式会社ミチタル	MICHITAL—日本に“樽の生態系”を—	
FutuRocket 株式会社	害獣・害虫検知のAIデバイス	
Various Robotics 株式会社 <small>※北海道枠</small>	4脚ロボットを活用したシカ農作物被害低減ソリューション	
TABEL 株式会社	果樹の葉と独自の発酵技術を活用した最上級クラフトティの開発	
株式会社FieldWorks	露地野菜畑用超小型草刈ロボット『ウネカル』の全国展開	
ネッスー株式会社 <small>※北海道枠</small>	こどもふるさと便	
株式会社アドレス	JA組合員の空き家を活用した農泊利用促進	

👑 イノベティブ賞 (計6社、登壇順) 本プログラム外でアライアンスや支援を検討する企業

株式会社 Arthron	畜産害虫サンバエの生物的防除事業	
株式会社ビーフソムリエ	肉用牛の肥育状態を可視化するB-som診断サービス	
ESSH 株式会社	弊社薬剤を活用した地域循環型エコシステム	
トイメディカル株式会社	6次産業化に『美味しく健康』の付加価値を	
ルラビオ株式会社	種豚オス豚の生産効率化	
一般社団法人クールアース	合成燃料精製装置とバイオマス発電設備の開発の取組み	

JA全農・尾本英樹常務理事の審査講評

新規事業を成功する^{ひびく}秘訣は「①諦めない②途中で違うと思ったら、柔軟に変更する③仲間をつくる」ことだと思っている。去年採択された企業は、現場から厳しいアドバイスをうけ「②柔軟に変更する」を実施することで、いま領域での実装に向かっている。今年、選定された企業にもプランの実現に向けて^{まいしん}邁進してもらいたい。



講評をする尾本常務理事



優秀賞を受賞した採択企業とイノベティブ賞の代表

採択企業9社が決定

JAアクセラレーター第7期

食と農、くらしのサステナブルな未来を共創するスタートアップを採択

AgVenture Lab(あぐラボ)は、JAアクセラレーター第7期の参加企業を決める最終審査会「ビジネスプランコンテスト」を5月21日に開催しました。【AgVenture Lab】

7期目となった今回のコンテストには、189社の応募の中から厳正な書類・面談審査を通過したファイナリスト15社が登壇。その中からスタートアップ9社が優秀賞として採択されました。さらに昨年から設定された「北海道枠」には今年も2

社が採択され、スタートアップの成長を支援するSTARTUP HOKKAIDOなど関係機関の支援を受けながら、道内での実証実験を実施します。

今後は約5カ月にわたって、プログラムのスポンサーである農林中央金庫・JA全農の職員が伴走者として支援。JAグループが保有するさまざまなアセットも活用しながら、11月に予定されるDEMO DAY(成果発表会)に向けて、ビジネスプランをさらにブラッシュアップしていきます。

JAアクセラレーターとは

JAアクセラレーターは「食と農、くらしのサステナブルな未来を共創する」をキャッチコピーとして、革新的なアイデアや技術をもったスタートアップを募集・選抜した後、短期間で集中的に成長を支援し、新ビジネスやサービス開発につなげるための

プログラムです。本プログラムでは、JAグループの強み(店舗をはじめとする各種インフラ、顧客ネットワークなど)を活用しながら、食と農とくらしに関連したさまざまな社会課題の解決を目指し、未来のイノベーションビジネスを育てていきます。

JA ACCELERATOR 第7期
by AgVenture Lab

JAアクセラレーター
QRは
こちら





東北・関東エリアの
ファミリーマート
約7000店舗で
発売

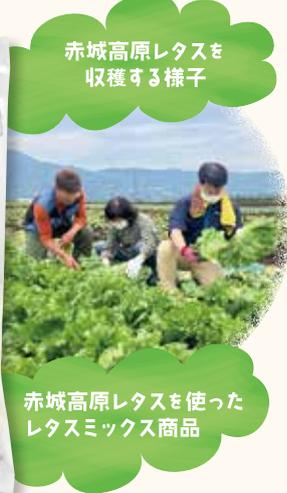
赤城高原レタスを使ったレタスマックス

全農は、ファミリーマートと連携し、「赤城高原レタスを使ったレタスマックス」を5月27日から東北・関東エリアのファミリーマート約7000店舗で発売しました。

※店舗によって取り扱いのない場合があります。【営業開発部・群馬県本部】

群馬県JA利根沼田産の赤城高原レタスを使用して商品開発しました。5月18日にはJA管内の圃場でファミリーマート加盟店に向けて収穫体験会を開催しました。参加者からは「レタスを一つ一つ手作業で収穫する大変さを実感した。お客さまにもおいしさを伝えたい」などの声が聞かれました。

今後も、ファミリーマートと協力した商品開発により国産農畜産物の価値・魅力を発信し、販売拡大に取り組んでいきます。



赤城高原レタスを
収穫する様子

赤城高原レタスを使った
レタスマックス商品

県内初出店のスーパーで 「いわて牛」PR



岩手県本部は、矢巾町のスーパーマーケット「カブセンター矢巾店」で4月26、27日の2日間、「いわて牛五ツ星」の試食販売会を開催しました。岩手県産食材の魅力をもPRする「いわて純情むすめ」らが店頭立ち、来店客に試食を呼びかけました。【岩手県本部】

青森県を拠点にカブセンターを運営する「紅屋商事」は、約10年前から「いわて牛」を取り扱っており、岩手県初出店となる矢巾店のグランドオープンに合わせて試食販売会を実施しました。

2日間で合計約720kgの精肉を用意したほか、試食用とし

720kgを用意「いわて純情むすめ」が試食呼びかけ



「いわて純情むすめ」が「いわて牛五ツ星」の試食を呼び掛けました

てサーロインステーキを配布し、お客さまからは「おいしい」「柔らかい」などの感想が寄せられました。

岩手県本部では今後も「いわて牛」のPRに力を入れ、消費拡大に取り組んでいきます。

JA全農の産地直送通販サイト



JAタウン ショップ紹介



おいしいおかやま

「岡山白桃」は袋掛け栽培で生産された岡山県産の白い桃の総称です。岡山の桃づくりの歴史は明治時代までさかのぼります。

一つ一つ手作業で袋を掛けて育てており、太陽の光を直接浴びないため赤く色づかず、白に薄い紅色がかかり上品な甘さと繊維質の少ないとろけるような食感の桃に育ちます。

安心して岡山の桃を食べていただくために、光センサーを導入して確実に選別しています。桃肌の緑色が消えて乳白色になり、手のひらで持った感じがやわらかく、桃特有の芳香が豊かに香りだしたら食べ頃です。

岡山白桃5~6玉
岡山県産【お中元】
…7600円(税込み)
※7月中旬ごろ~8月上旬発送



ご注文は
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com

